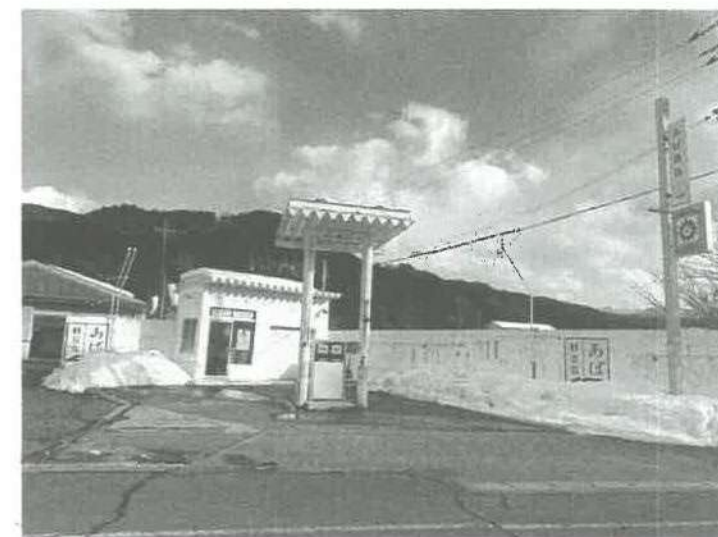


事例⑨岡山県津山市阿波地区

SS名称	あば商店
SS概要	2005年に旧阿波村が合併により津山市に編入した後、急速に高齢化・人口減少が進行していた。地域唯一のSSが撤退を表明したことを受け、2014年2月に住民出資により「合同会社あば村」を設立してSS運営を開始。あば商店(SS)を核とした小さな拠点づくりに取り組む。
運営形態	施設・設備：前事業者からの無償貸与 運営：合同会社あば村
立地	津山市阿波出張所から200m、阿波地区(旧阿波村)の中心部 津山市中心部まで約30km
給油以外のサービス・事業	移動スーパー・宅配 店舗運営(食料品・日用品販売) 小水力発電事業 農産物の加工・生産・販売 グランピング 移住者向け住宅紹介 等
地区概況	人口：480人(2020年1月1日時点) 高齢化率：47.9%(2020年1月1日時点)

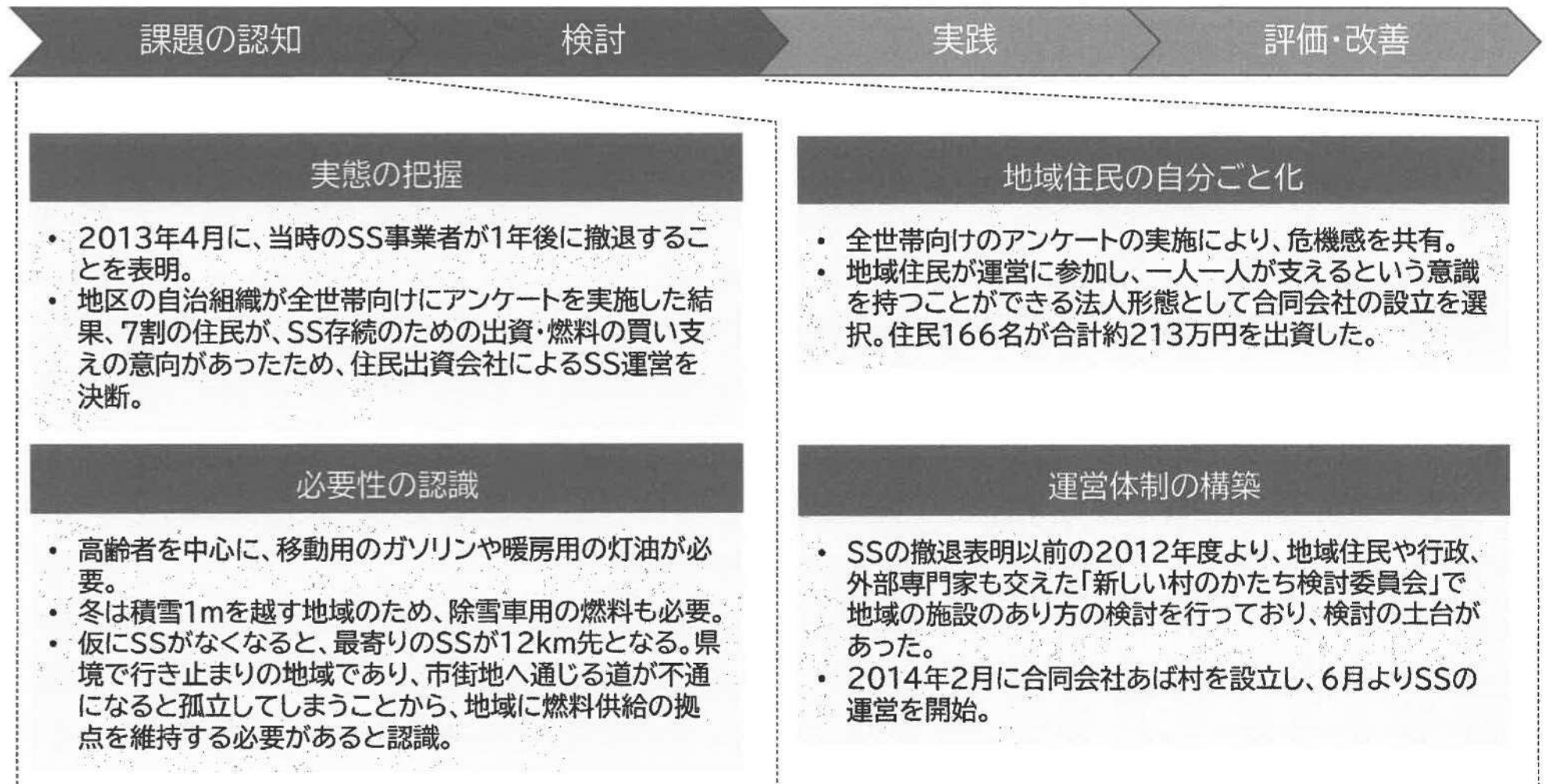


注)本資料に記載の「あば村」は合同会社の社名であり、行政区分上の村ではない。
市町村合併前の村名は「阿波村」、合併後の字名は「津山市阿波」である。

3-1. 事例フォローアップヒアリングの結果

事例⑨岡山県津山市阿波地区＜課題の認知・検討＞

- 津山市阿波地区における課題の認知・検討のプロセスや取組状況は以下のとおり。



3-1. 事例フォローアップヒアリングの結果

事例⑨岡山県津山市阿波地区 <実践・評価・改善>

- 津山市阿波地区における実践・評価・改善のプロセスや取組状況は以下のとおり。

課題の認知

検討

実践

評価・改善

需要の確保

- ・ 立地条件から、利用者が地区の住民に限定される。
- ・ 住民の自家用車向けの給油、公用車や路線バス(阿波バス)への給油もある。冬場は除雪車向けの軽油需要もある。
- ・ 他に、温浴施設向けの灯油需要もあり、月によっては大半を占める。官公需の買い支えが大きい。

多角化の取組

- ・ 店舗運営、移動販売と併せた見守りのほか、農産物の加工・生産・販売、小水力発電、グランピング、移住者向け住宅紹介等の様々な事業に取り組んでいる。

担い手の確保

- ・ 地区内に危険物取扱者の資格保有者が複数名おり、担い手を確保できた。さらに、移住者が新たに資格を取得した。
- ・ 現状、代表社員や執行社員はボランティアである。今後担い手として期待される40～50代の住民や移住者は本業があるため、参画が難しく、今後の引き継ぎが課題。

事業収支

- ・ 会社全体の売上は、平成28年度期の2200万円から、令和2年度期の3600万円まで伸長。平成28年度期の売上はほとんどがガソリンであったが、令和2年度期の売上は1900万円がガソリン、1700万円が物販であり、物販の伸びが売上伸長に大きな影響を与えている。

承継後の想定外の事象

- ・ 合同会社はメリットもある反面、出資者に広く発言権があるため、合意形成が難化しがちであった。
- ・ 意思決定が難しくなっていたため、執行社員を限定し、代表社員に意思決定権を集中させることで、意思決定を早期化した。

中長期的な見通し

- ・ 今後、高齢化が進めば、燃料油販売量は更に減少する恐れがあるため、多角化による売上確保が必須。
- ・ タンクの老朽化への対応や、適したサイズの設備・調達体制の構築も課題。